

刊夕日六十月二



定価一冊五錢... 発行所 常磐宮日新聞社

### 陀羅尼門禮讚

眞 繼 雲 山

經典は或る意味において佛の遺言であり、或る意味において佛の遺してゆいた詩である。

佛の直説が、そのまゝ、音器のやうに傳へられたものが小乗佛敎であり、佛の眞意が開顯されたものが大乘佛敎だと見ることが出来ると思ふ。

佛滅直後、大迦葉が上首となつて王舎城外の畢波羅窟に五百の阿羅漢を統理して第一次の結集を行ふたとき、廿五年間佛に常隨した強記第一の阿難陀が、佛御一代の御説法をそのまゝ復誦し初めた時、一座の羅漢たちは思はず顔を見合はせ中には涕泣して佛を追慕する者があつたといはれる、それは阿難の復誦が單に佛住世時の敎説を一言一句、誤りなく傳へたばかりでなく、その音調が在りし日の釋尊の聲調にそっくりであつたからである。

佛滅後、年處を隔つる毎に、第二次、第三次と結集が催されて行つた、結集と結集との間は百年二百年と隔たつてゐるのであるから部派敎會を中心にして小結集が日々、月々、年々に行

はれて行つたに相違ない、その小なる日々の結集とは惟ふに今日の寺院で衆僧の合誦する讀經の如きものであつたであらう。

その結集の師子相承は、單に釋尊の敎説を傳へたばかりでなく、その聲調語韻をも一種の音律をたもちつゝ傳へたであらうから、三千年後の今日の讀經の音律には、たとへば露ばかりにもせよ佛直説の音調が傳へられてゐるものと私は考へる。それゆゑ佛の遺敎を音律として聞く時、經典は佛の遺敎であると同時に、佛の遺された詩であると言ひ得よう、私は朝夕詩としての經典を佛前に愛誦して己まない。

てゐる經意が、一々腦裡に印せられてゆくために詩としての自由な愛吟が往々にして妨げられる、陀羅尼に至りては、必ずしも然うした煩ひがない、この故に近來の私は、それら漢譯の經典を通り越して陀羅尼文を誦してゐるが、その風趣いよ／＼以て芒深幽妙正しく佛祖に契會するの感がある。一口にいへば、心經は一切皆空の開示であり、壽量觀音經は解脱門の顯誦であると思はれるが、陀羅尼にいたりては梵語の棒讀みであるから、梵語の門外漢に取つては容易く原典の意を汲むことは出来ぬ、而かもその意を知らずして、これを誦するは無用の沙汰といふこと必ずしも當らぬ。

だら尼はもと呪文であつて、元來翻譯すべきものでないといふのは翻譯によつて融通無碍なる原典の眞意を限局し滅却する虞れがあるからであらうが、今一つは翻譯することによつて原典の聲調語韻が破壊されて仕舞うからであらう。

「汽笛一聲新橋を——」といふのを英譯してみても汽笛一聲の味は出て来ない。「ナムカラタンノウ」を三實に歸命すと直識し「サラバタタキヤタ」を「一切如

來」と譯したのではだら尼本然の風趣は臺なしとなる法華經の「デビデビ」にしても、大悲心だら尼の「ナムカラタンノウ」にしても、尊勝だら尼の「サラバタタキヤタ」にしても、一經には一經独自の風韻語調が流れてゐる、そこに佛、我れに入り我れ佛に入るの境地が生れる。

この故に私は、謹んで彼のだら尼文を禮讚する。

私の愛詩はかつては人並に、般若心經であり如來壽量品であり、觀音經であり時に阿彌陀經であり、正信偈でもあつた、今もこれ等を誦すること昔にひとしいが、その文面にあらはれ

誠便利な 商 品 券  
金額の多少に不拘調 製致します  
平町南町 鳥肉商 鳥 菊

毛糸  
春向新色澤山入荷致しました  
御値段は 一オンス十五錢  
島 三モトヤ糸店

花外柳病科 専門  
木村外科醫院  
平町五丁目橋際 電話三〇九番

冬の通學服  
本店特製の黒小倉通學服を豊富に取揃へて御座います。  
長ズボン付  
小學生用..... 85錢  
同(特製品)..... 190錢  
中學生用..... 280錢  
なかや洋服店 平町三番 電話203

門 專  
花柳病科 婦人科 産科  
◎入院應需  
井坂醫院  
平町田町 電話五五九番

器灸温ムウチラ  
醫學博士 名 推 奨  
胃腸病 婦人病 其他の慢性諸症 肥り度い人の福音 熱くなく痕つかず無煙式 誰にも出来る理想的家庭治療器  
志賀齒科醫院  
福島縣平町五ノ廿八  
約 卸 治 療 産 婆 關 口 悦 子  
福島縣平町白銀町九  
販 理 部 產 婆 關 口 悦 子  
表 價 定 金拾圓上製桐箱入一揃 (說明書呈)



# 六歳の英子ヤンが

## 泥的逮捕のお手柄

### バットを買った怪しい客が 留守と見て賣溜金を掻きまわす

昨十五日午後三時頃石城郡小名濱町古港煙草小賣人平野鐵之助方へ一名の漁夫がバット一個を求めに來店したが一家の者は不在で三男の英雄(六)がバットを賣り外に遊びに出たのを見濟し一度立ち去つた件が再び立ち戻り店頭で置かれてあつた賣溜金二圓九十六錢餘を窃取逃走せんとするのを英雄が発見大聲を立てたので近所の者が走せ集り引ッ捕へ其筋へ引渡したが同人は神奈川縣足柄郡小田原町幸町生れの漁夫で佐藤勇太郎(三)で魚の陸揚げに小名濱に上陸したが子供ばかりの留守宅を見て錢慾しさに窃盜を働いたのであると

### 一二勇士昇級

#### 本郡出身戦死者

既報本月十日のハルビン附近戦闘に於いて名譽の戦死を遂げた若松廿九聯隊一等兵石城の飯野村出身の山崎一好君並に山田村出身の一等兵安島喜一君はいづれも此の程上等兵昇級したと

### 金比羅祭

昨十五日  
參詣賑ふ 日は湯  
本町の金比羅祭で平町から

### 甘酒を辻賣して

#### 純益を慰問金に

#### 植田町の美談

石城郡植田町大字石塚農小澤喜久治(三)同町大字植田ブリキ職正木正(三)の兩君は寒い滿洲で奮闘する兵隊さんを慰めるためと四月初めから毎夜十二時まで甘酒の辻賣をして純益一圓十錢を得たので之を十五日福島聯隊區司令部に差出した

### 福島號

#### 建造費献金

#### 石城郡も

#### 一致して

縣民一致で建造せんと目下計畫中である愛國飛行機福島號について石城郡郷軍人聯合分會では目下各方面に賛意を求めつゝあり近く正式に發表を見る筈だが警戒高女ではこの程職員生徒が

午後一時より同校講堂に催し卒業生中より十五六名一般學生より十餘名の辯士が大熱辯を振つて午後三時散會した

### 前回よりも

#### 二十錢安値

#### 大浦共同販米

石城郡大浦村信用組合の農業倉庫に於ける米の共同販賣は昨十五日同倉庫に行はれ四等百四十三俵、五等百六十俵、等外三十俵、合計三百三十三俵を入札に付した結果四等建値一俵八圓九十四錢、五等八圓七十四錢を以つて全部湯本町入山炭礦糧食部に落札されたが前回よりも廿錢の安値である

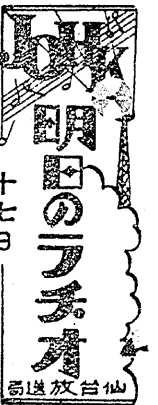
### 神谷軍事講演

石城郡神谷村青年團では去る十四日午後一時より同村小學校に協議會を開き來月三日の陸軍記念日に際し軍事思想普及講演會を開催第二師團に講師派遣方を交渉する件に就き協議したと

### 婦人監視員の希望

#### 續々と申込相次ぐ

既報平職業紹介所で目下大々的な宣傳のもとに募集中である昭和産業博覽會四十名の女監視員の申込みは愈々昨十五日より受付を開始したが早くも郡山、双葉、福島等より書面を以つて申込みで來る者もあり平町内の通勤者に限る條件の



### 明日のラジオ

十七日  
朝霧氣天  
今晚も明日も  
西の風強く晴れ

### 今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話「西行法師」廣島高等學校教授北島葦江
- 後七、三〇 選舉講座「第三次普選に際して」東京市長永田秀次郎
- 後八、〇〇 浪花節「雷電爲右衛門」東家鶴燕
- 後八、四〇 琵琶「桶狭間」宮崎錦陽
- 後九、一〇 三重奏「グア」オリオン小沼南水夫、フルート藤原仁郎、ピアノ板垣一雷門助六

### 平映畫界

- 世界館 東亞現代劇集秀人主演「就職戦線」東亞時代劇「門光三郎、小坂照子主演」風雲青葉城「阪妻自由映畫阪東妻三郎、鈴木澄子主演」風雲長門城
- 平館 松竹時代劇林長二郎主演「馬頭の錢」日活現代劇入江たか子、瀧花久子、峰吟子、島耕二主演「心の日月」

### 平職業紹介所報告

- 求人部
  - △風呂番 五十才以下 要細面談(江名町某風呂屋)
  - △商店雜役 廿才前後 尋卒 月十圓迄(平町某)
  - △雜夫 廿才以下 尋卒 月五圓位(豊間村某鮮魚商)
  - △旅館女中 廿五才迄 尋卒 月三圓外チップ(小野新町某旅館)
- 求職部
  - △産婦披 四十六才 尋卒 日給廿錢位(平町某)
  - △施盤工 高卒 給料面談(赤井村某)
  - △風呂番 卅二才 尋卒 給料面談(上遠野村某)
  - △採炭夫 廿八才 尋卒 給料面談(愛知縣某)
  - △洋服職 十八歳 高卒 給料面談(湯本町某)

### 平謡曲婦人會

平町謡曲同好の婦人で謡曲婦人會を設け十八日發會式をあげる

- 倉金十郎
- 後九、三〇 奉天より放を中繼す
- 後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組報告
- 明日の部
  - 前九、一〇 料理献立「ベイクドオニオン」小林忠雄
  - 前一〇、三〇 家庭講座「家計簿記」大原信徳
  - 後一〇、五〇 落語「菊江佛壇」雷門助六

- 後二、〇〇 家庭大學講座「佛敎の常識」(四)駒澤大學教授山上曹源
- 後六、〇〇 (子供の時間) 電話劇「初鶯」如月ことも會
- 後七、三〇 中部支那事情特別講座「長江の航運に就て」清汽船株式會社長男爵 深尾隆太郎
- 後八、〇〇 講演「總選舉に際し縣民に望む」宮城縣知事三邊長治
- 後八、二〇 義太夫「繪本大功記」豊竹若湊
- 後八、五〇 ラヂオレヴェ「ベルデインの斷層」藤島俊郎外大勢
- 後九、三〇 奉天より放送を中繼す

### 大塚の 學生靴!!!

耐久新製品  
編上靴 六・〇〇  
半靴 五・〇〇

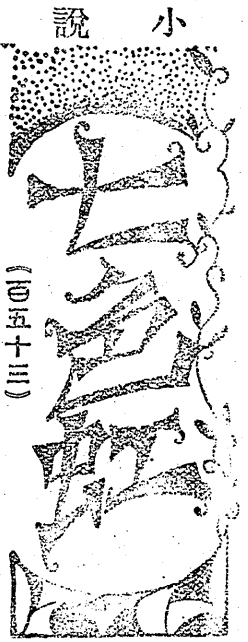
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を

大塚支店製靴部  
電話七七番

### 三井の 手切商品

番 八 四  
番 三 二  
平 三 電





【載轉禁】

渡邊 默禪 作  
布施平八郎 畫

未亡人の秘密 (3)

高野はそれを知らなかつた……また一面からは例の影法師、まだ正体が分らぬ疑問の男があるので、自分なんかは問題にしないのであらう、とも考へたりした。

さうしてひとりいでいらつて焼酎酒をあほつてゐた。

思ひ余つていつか酒の力を頼りうけ打附に心の丈を訴へて女に迫つた時に、郁子は顔の色を變へて言下に拒絶した。

『お前は私を侮辱するの。今は寡婦でゐるけれどさういふ品行な眞似は私には能きないの、私には私としての大切な節操も又責任もあるんだからね、それを破壊して私を墮落させやうとするのは私を精神的に殺さうとするやうなものだわ。いつまでもそんな考へでゐるなら今後出入を断るから然う思つて頂戴』

その際、彼はやけになつて言つた。  
『奥さんにはさういふ立派な口をお聞きになる程の資格がお有りになるんですか。もし貴女の行ひに合のお言葉を裏切るやうな事實があつたら、如何なさい』

女に復讐してやらなければ男の一存が立たなくなつて来た。秘密を許してやるといふことは新しい一つの意義が加はつて、更に一段の努力をなすべくそゝり立てた、彼は狂人のやうになつてその穿鑿にとりかゝつた

すると郁子はさげすむやうな冷笑の下から答へた。  
『有つたらお目に懸らないわ。自殺をしてなりと自分を葬つて見せます』  
『よしッ、今被仰つたことをよく記憶して下さい』  
怒うなると彼は意地でも



足は自づと野毛坂に向つた。そして最寄の交番について鳥部花子といふ家の様子を尋ねた。と、家族は花子が世帯主で母と二人、雇人が一名職業はダンスとかヴァイオリンとかを教授するんだと言つて居るがよく分らない、と巡査はさう答へて薄気味悪い笑を洩らした。で、今度は出入の酒屋だの魚屋だのを一々聞いて廻つたが分つたのはやはり夫だけの範圍であつた。  
彼は根強くその翌日も出かけた。そして夕景から同家の居巡りをぶら／＼して油断なく偵察をつづけた。

と、七時過頃、何處からか自動車ややつて来て門先に停つた。間もなく家のなかへ洋服をつけた若い男が出て来てそれに乗つた。色の生白い、鼻の小隆い、面長の金縁眼鏡をかけた二十五六の紳士だ。

直向の辻角に立つた。ポストの蔭からそれを見てゐた彼は頓て更に大きな衝動を授けられて赫と心臓の血を湧き立たせた。  
男の乗つた跡から出て来て同じ車に同乗した美しい貴婦人こそ、粉ふ方ない郁子其人だつたのである。  
その瞬間に彼は眼も爛れるやうな激しい嫉妬を感じた。  
『は、ア、あいつかな、問題の男は……む……どうやら輪廓が似てゐるやうだ。さうだ。あの野郎だ』  
高野は心に此前見かけたことのある怪しの影法師を思ひ浮べて、實物と比較しつゝ、呪の目は二人に向けて、ゐるうちに、自動車は忽ち動き出して野毛町を一直線に夕闇のなかに吸はれていつた。

内科 小兒科 花柳病科  
藤 沼 醫 院  
入 院 需 應

平 町 五 丁 橋 際  
屋 七 〇 五 番  
電 話 三 〇 九

木村 科 醫 院  
平 町 五 丁 橋 際  
電 話 三 〇 九

御用命 印刷物の總代理  
常磐毎日印刷株式會社  
電話 三六〇番

上田 科 醫 院  
平 町 南 町  
電 話 二 一 九 番

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します  
往診 呼吸器病ばかりではありません  
平町南町六五

川井 内科診療所

醫學士 川井重之  
女 醫 川井安子

吉田眼科病院  
平 町 南 町 電 話 六 八 番

貸切は……

セダン揃ひで

貸切専門の

昭和タクシーへ

電話 三四三

磐城名産

鯨節と鹽



最優最大日本生命平代理店  
志賀盛榮  
平 町 四 丁 電 話 一 二 三 番

美味! 芳醇!  
たひら正宗

山崎合名會社  
電話 一〇番

難波醫院

平 町 新 川 町  
【釜屋新宅向】  
電 話 五 〇 二 番